

Costume and Textile

No.43

服飾文化学会会報

2022年3月

2022（令和4）年度 第23回服飾文化学会 大会のお知らせ

2022（令和4）年度 服飾文化学会 第23回大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様にご参加くださいますようお願い申し上げます。

【2022（令和4）年度服飾文化学会 第23回大会】

開催日時 2022年5月21日（土）10：00～17：30予定
*不測の事態の予備日 5月22日（日）
開催校 東京家政大学
開催形式 オンライン会議システム「Zoom」を使用したオンライン大会

1. 大会プログラム

◆ライブ配信

10：00～10：05 開会の辞
10：05～11：20 特別講演
11：35～16：50（予定）口頭発表、ポスター発表・
作品発表 ショートスピーチ
17：00～17：30 総会・閉会の辞

◆オンデマンド配信

9：00～18：30 ポスター・作品発表
（スライド画像）

※発表件数によっては時間変更が生じます。後日HPに掲載するプログラムのご確認をお願い致します。

2. 発表・参加申込：taikai.fukubun@gmail.com

（1）発表申込締切日 2022年3月26日（土）

- ①既に第23回大会ご案内メールにてお送りしました「発表要項」（2種）に沿って、第23回大会実行委員会までEメールにてお申込みください。（3/26必着）
- ②発表形式には、口頭発表・ポスター発表・作品発表の3種があります。
- ③発表は未発表の研究報告で、共同発表者とともに本学会員に限られます。非会員の発表希望者は学会ホームページから、必ず入会手続きをお願い致します。

（2）要旨原稿締切日 2022年4月23日（土）

提出メールアドレス：taikai.fukubun@gmail.com
詳細は開催のお知らせメールをご確認下さい。

（3）参加申込・払込締切日 2022年5月7日（土）

参加申込：第23回大会ご案内メール、学会HPに記載された申込フォームにてお申込みください。

参加費	会員	1,000円
	非会員	2,000円
	学生会員・非学生会員	無料

ゆうちょ銀行：振込口座 00100-8-674433

他行ご利用：〇一九（019）店 当座0674433

加入者名：沢尾 絵（サワオ カイ）

振り込みの確認が済みでしたら、開催3日前にZOOMのURLを送信いたします。

3. 特別講演

◆講師 糸山弓子氏

帽子デザイナー、元東京家政大学非常勤講師

◆演題「ニューヨーク・東京 帽子作家としての活動と作品の紹介」

◆プロフィール

1981年 ニューヨークを活動拠点とする。

1983年 ニューヨークにて、「Yumiko Hats」設立
服飾デザイナーのNYコレクション用帽子製作

1988年 帰国 代官山に帽子店をオープン

帽子ブランド名を「yumiko itoyama」に変更
2022年現在 渋谷区恵比寿にて活動中

舞台、映画、テレビコマーシャル、ドラマ用の帽子製作、服飾デザイナーのパリコレクション用帽子も数多く手がけている。

4. 連絡先

服飾文化学会 第23回大会実行委員会

taikai.fukubun@gmail.com

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 東京家政大学

大塚有里 沢尾 絵 三友晶子

otsuka@tokyo-kasei.jp TEL 03-3961-8394

2021（令和3）年度 服飾文化セミナー・研究例会の報告

2021年度の服飾文化セミナーと研究例会は合同開催とし、オンラインで行われました。第1部は服飾文化セミナーとして、「大学博物館・美術館バーチャル見学会」と題し、杉野学園衣裳博物館、東京家政大学博物館、文化学園服飾博物館、女子美術大学美術館、共立女子大学博物館の展示映像を貴重なお話と共に見せていただきました。第2部は研究例会として、『TOKYO大学博物館ガイド』などの著者である大坪覚氏を講師にお招きし、「大学博物館・美術館の魅力ー服飾文化・教育成果の展示を中心にー」と題してご講演いただきました。

当日は71名というたくさんの方にご参加者いただきました。内訳は正会員47名、学生会員3名、非会員21名（うち学生9名）であり、オンラインの利点を生かし遠方の方や非会員の方にも多くご参加いただきました。服飾文化セミナーと研究例会講演の内容は以下の通りです。

（服飾文化セミナー・研究例会担当 畑久美子）

第1部 「大学博物館・美術館バーチャル見学会」

- ・杉野学園衣裳博物館（安部智子 館長）
「明治の錦絵にみる装い」
- ・東京家政大学博物館（三友晶子 学芸員）
「裁縫雛形と自主自律の教え」
- ・文化学園服飾博物館（金井光代 学芸員/菅野ももこ 学芸員）
「再現 女性の服装1500年ー京都の染織技術の粋ー」
- ・女子美術大学美術館（藤井裕子 学芸員）
「女子美染織コレクション展Part9 舞楽装束」
- ・共立女子大学博物館（川井結花子 学芸員）
「ベル・エポックからモダンへ」

新型コロナウイルス感染拡大により、以前のように気軽に展覧会を楽しむことが難しい状況にある現在、博物館・美術館で「展示」を見る楽しみや充実感を再び取り戻すことを目指して、5つの大学博物館・美術館の館長や学芸員の方にご協力いただき、今年度開催された服飾文化に関する展覧会をご紹介いたしました。

ご協力いただいた各館の皆様には、展覧会開催中のお忙しい中、来館者の目線に立った動画や写真等をご準備いただき、詳しい作品解説や展示の見どころをお話いただきました。まるで展示室にいるかのような臨場感と、ギャラリートークに参加しているかのような充実感を味わうことができました。惜しみないご尽力に改めて心より御礼申し上げます。

田中淑江副会長の閉会の辞にありましたとおり、5つの博物館・美術館を一度に巡ることは実際には難しいため、今回のバーチャル見学会はオンライン開催ならではの良さを活かした企画となりました。一日も早くコロナ禍が収束し、安心して展覧会に足を運べる日々が戻ることを願うと同時に、新しい博物館・美術館の楽しみ方を今後も探っていければと思います。

（服飾文化セミナー・研究例会担当 三友晶子）

第2部 「大学博物館・美術館の魅力

ー服飾文化・教育成果の展示を中心にー

講師：大坪 覚 氏（『TOKYO大学博物館ガイド』著者）

2021年度 服飾文化学会
服飾文化セミナー・研究例会
 2022(令和4)年 2月19日(土) 13時 - 15時30分



13:00 開会の辞 会長=長崎 巖 (共立女子大学)

第1部 大学博物館・美術館バーチャル見学会

13:10 杉野学園衣裳博物館 「明治の錦絵にみる装い」

13:25 東京家政大学博物館 「裁縫雛形と自主自律の教え」

13:40 文化学園服飾博物館 「再現 女性の服装1500年ー京都の染織技術の粋ー」

13:55 女子美術大学美術館 「女子美染織コレクション展Part9 舞楽装束」

14:10 共立女子大学博物館 「ベル・エポックからモダンへ」

休憩 14:25 - 14:40 (15分)

第2部 講演会

14:40 講 師 = 大坪 覚氏 (『TOKYO大学博物館ガイド』著者)
 テーマ = 「大学博物館・美術館の魅力ー服飾文化・教育成果の展示を中心にー」

15:10 質疑応答

15:25 閉会の辞 副会長 = 田中淑江 (共立女子大学)

開催方法 = zoom に 1 着 ライブ配信
 定員 = 300 名
 受付期間 = 2021 年 12 月 19 日 (日) - 2022 年 2 月 12 日 (土)

参加費 = 無料
 申込方法 = 申込フォームよりお申込み下さい。
 申込URL = <https://forms.gle/Mjuo6BRn3D8svCf6>

問合せ先
 ・文化学園服飾博物館 菅野ももこ mo-kanno@bunka.ac.jp
 ・東京家政大学博物館 三友晶子 mitomo@tokyo-kasei.ac.jp
 ・愛国学院短期大学 畑久美子 hatagakoku-jc.ac.jp

＝ プロフィール ＝

1967年富山県生まれ、龍谷大学文学部史学科国史学専攻卒。2004年から文化学院創造表現科で学びながら新作映画紹介、ブックレビューなどのライターとして活動。2009年『TOKYO大学博物館ガイド』、2011年『KANSAI大学博物館ガイド』、『TOKYOこだわりの学食』を出版。2009年4月から2018年3月まで文化学院文芸コース非常勤講師。テレビ・ラジオ番組、新聞、雑誌などで「大学博物館」の紹介をする機会多数。

＝ 講演内容 ＝

講演テーマ「大学博物館・美術館の魅力－服飾文化・教育成果の展示を中心に－」についてお話しさせていただき前に第1部で紹介された大学博物館・美術館バーチャル見学会の各館の感想をお伝えしました。

杉野学園衣裳博物館「明治の錦絵にみる装い」について、さまざまな大学博物館の展示で錦絵を見ることがあり、その錦絵に描かれている情景から多彩な情報を見出していくことで関心が広がります。今回の展示では錦絵に描かれた洋装を見ていく中で、「金剛石も磨かずば～」という有名な昭憲皇太后の御歌が描かれた錦絵はお茶の水女子大学歴史資料室で見た展示が連想されること、明治22年の錦絵に日本人らしい弦楽四重奏の演奏姿からは東京音楽学校の歴史への関心が、明治26年の錦絵に描かれたミシンからは近代化の進む日本でミシンはどのように普及していったのかなどを考える契機につながりました。錦絵と実物の衣裳の展示によって、見学者がより具体的に感じられるように構成されていると思いました。

東京家政大学博物館「裁縫雛形と自主自律の教え」については、東京家政大学博物館収蔵の最も特色ある資料である裁縫雛形に関する展示が、コロナ禍の影響で学内のみ公開という状況でしたが、このような機会にバーチャルで拝見することができたのも新しい時代らしい試みだと感じました。おひとりの卒業生が大切に保管されていた3年間の在学中に制作された裁縫雛形すべての展示が特に印象深く、雛形が保管されていた行李も一緒に展示されていることは母校の先輩へのリスペクトが伝わりました。東京家政大学の校史でよく出てくる「渡辺の大荷物」のフレーズが思い出されました。また、裁縫雛形が以前テレビ番組で紹介されたことが光村推古書院『裁縫雛形』の出版に結びつい

たことは大学博物館のメディア紹介が良い形になったことの一例と伺いました。

文化学園服飾博物館「再現 女性の服装1500年－京都の染織技術の粋－」では、文化学園服飾博物館らしい展示空間の構成が画面越しからも感じられました。以前より服飾博物館のメディア紹介の際には、カメラマンやディレクターの方々より照明の使い方がとても印象的だという感想をよく聞きます。デザイナーのコレクションの展示的な要素が感じられるのも展示の魅力です。今回は京都がテーマなので、京都の大きな特色である日本画との関連などにも触れられていることはもっと詳しく教わりたく強く思われました。コロナ禍でも可能なイベントを開催されたということも文化学園らしい積極性を感じました。

女子美術大学美術館「女子美染織コレクション展 Part9 舞楽装束」は、女子美アートミュージアムでの展覧会らしい広い空間を活用された展示と感じました。こちらの美術館は自然が豊かな相模原キャンパスの中にあり、大学美術館では稀少な外光が入る広いロビーが屋外のような印象を与えてくれてとても開放感があります。舞楽の舞台が再現されている展示室への前にその明るい空間があることが独特の作用をもたらしているようでした。舞楽装束の動物的なデザインはさまざま大学博物館で拝見した民俗学、民族学の資料を連想させてくれて興味深いものでした。

共立女子大学博物館「ベル・エポックからモダンへ」の展示は、これも共立女子大学博物館らしいコンパクトな展示スペースの特色を活かした展示と感じました。展示室に入り真正面の展示位置にある、見学者が感じる「センター」的な存在感のある服飾資料が特に展示の際に工夫されていることを聞き、感銘を受けました。限られた空間でもさまざまな発想によってユニークな展示空間を生み出せるのも大学博物館の特色だと常々思っています。紙媒体の資料である「ファッションプレート」の紹介からは服飾の歴史は出版やメディアの発展の歴史ともリンクしていることをあらためて思い起こしました。

続いて講演テーマについてパワーポイントを使いながらお話しさせていただきました。

主に新作映画やブックレビューの紹介記事を書いているライターである私がなぜ大学博物館の紹介をさせていただいているかということですが、それは私の母

校である龍谷大学の校友会から2008年10月に送られてきた校友会報がきっかけでした。そこには龍谷大学が所蔵している資料を展示する「龍谷ミュージアム」が2011年開館と紹介されていました。なるほど大学に博物館ができるのか、と思いました。以前から博物館や美術館は趣味で訪れていて、東京藝術大学大学美術館、明治大学博物館、東北大学史料館を实际訪れたことがありました。また偶然ですが展覧会や博物館に関連した新聞記事などを切り抜いていたこともあり、それらを整理しながらインターネットで検索し、東京に所在する大学博物館をいろいろと訪れると、それぞれがとても面白く印象に残りました。それから各大学博物館のリストを作りながら東大や日大、学習院や慶應、早稲田など各大学出身の知人に母校の大学博物館に行ったことがありますか、と質問すると「あるのは知っていたけど一度も行きませんでした」と共通の答えが返ってきて驚きました。大学博物館の面白さがまだ知られていないのはとても惜しいと思いました。そして女子美術大学出身で出版社で編集者をしている知人に聞きますと「女子美の美術館、行ってきましたよ」と言われました。そこで手製の東京エリアの大学博物館のリストを見せると興味を持っていただき、取材して出版しようという流れになりました。とても幸運だったと思っています。

2009年に『TOKYO大学博物館ガイド』を出版させていただいてからメディアで大学博物館の紹介をさせていただくことが多くありました。その際にいつも受ける質問があります。それは「大学博物館とふつうの博物館はどこが違うのですか?」、「大学博物館の魅力とはなんですか?」というものです。そこで私の意見として、大学博物館とは

- ・最新の研究が紹介される博物館
 - ・「キャンパスの中」という特別な空間
 - ・気軽に訪れることができるオープンキャンパスであり、大学の普段着の顔であり、大学の象徴である
 - ・「学びたい」という気持ちが湧く博物館
- などという風に話しています。

またいつもとても困る質問として「日本に大学博物館はいくつありますか?」というのがあります。私が紹介している「大学博物館」は幅広いのですが、2017年にテレビ番組では「420以上」と紹介いたしました。コロナ禍での変動が考えられるので今後さらに

確認していきたいと思っています。

大学博物館における「服飾文化」と近年よく聞かれる「開かれた大学」ということについて、まず本日紹介された「大学博物館の常設展・企画展」というものがあります。そしてさらに「卒業制作展」、それと「ファッションショー」という大きなイベントがあります。これらもコロナ禍で開催や一般向けの公開に困難が生じていますが、また見ることができればと願っています。

服飾文化の資料の展示を見ていくと裁縫雛形や改良服、染織コレクションなどのキーワードを目にするようになります。これらをさまざまな大学博物館で見ることによって、次第に関心が深まっていくことも大学博物館を見に行く楽しみのひとつです。また、メディア取材の際に私がいつも提案するフレーズとして、文化学園服飾博物館で以前見学した、雑誌の『装苑』に関する展覧会で見た展示パネルの一文に「この号を最後に型紙が付録からなくなりました」という意味のものがありました。正にこの時をもって日本では服は自作するものから買うものになった歴史的瞬間、といつも話していますが構成作家やディレクターの方々にまだ注目していただけないのが残念です。

服飾の研究を専攻された学生の卒業制作展やファッションショーは美大の卒業制作展とは異なる強さがあり、作り上げていく熱量が強く感じられます。特に観客の方々の、おそらく家族の方々と思われすが素晴らしい笑顔でご覧になっている光景をよく見ました。大学博物館の展示で特に印象に残っている光景です。

大学博物館を数多く見学させていただき、私の中でさまざまな「学び」への意識が生まれました。私が大学で専攻した日本史では出てこなかった具体的な女性史や生活史といった新たな知識を求める入口に大学博物館は間違いなく役立ちました。「戦前の女性は」という固定概念も払拭されていきました。多くの学園を創立された女性教育者について学ぶようになり、「ジェンダー」についても考えるようになりましたのは、とても大きな出会いであったと思います。このような機会をいただきまして本当にありがとうございました。

*「講演内容」について、当日のお話を踏まえ、大坪覚先生より改めてご寄稿いただきました。重ねて御礼申し上げます。

2021 (令和3) 年度 論文発表会の報告

今年度の論文発表会は、2022年2月26日(土)の13時30分より開催された。新型コロナウイルス(COVID-19)の流行状況を鑑み、昨年度と同様にオンライン会議システムZoomを使用した発表会となった。オンラインによる諸会の開催が日常となっていることもあり、当日は70名以上の参加者を得ることができた。

今年度は、学部4年生による6件の申し込みがあった。また、新型コロナウイルスの流行により急遽中止となった2019年度の発表予定者にも発表を打診し、2名の卒業生から快諾を得られたため、合わせて8件の卒業論文が発表された。

田中淑江副会長の開会の辞では、服飾は多面的で様々な側面から研究できる分野であり、その研究成果を大学の垣根を越えて共有できる場であると、この発表会の意義が述べられた。

卒業論文8件の発表の概要は以下のプログラムの通りである。

<プログラム>

開会の辞 副会長：田中 淑江 (共立女子大学)

卒業論文

座長 小山 直子 (昭和女子大学)

1. 中学校家庭科における持続可能な衣生活の授業提案
平岡 亜美 (共立女子大学)

座長 玉田 真紀 (尚絅学院大学)

2. ジェンダーから見る新たなファッションの可能性
-ファッションは性差の壁を越えられるのか-
内田 百香 (杉野服飾大学)

座長 砂長谷 由香 (文化学園大学)

3. 低身長ファッションの分析
影山 詩衣留 (実践女子大学)

座長 馬場 まみ (京都華頂大学)

4. 江戸時代における「表」と「奥」の衣生活
-文化史的視点からの考察-
小河原 寛子 (共立女子大学)

座長 須藤 良子 (大妻女子大学)

5. 和更紗の探求
-京更紗と堺更紗の判断基準をめぐって-
引地 茜 (東京家政大学)

座長 中西 希和 (秋草学園短期大学)

6. 印象派画家ベルト・モリゾが描いた女性と服飾
川井 恵 (日本女子大学)

座長 富田 弘美 (東京家政学院大学)

7. Cy Twomblyからのデザイン発想-実物製作-
木村 友美 (文化学園大学卒業生)

座長 菅野 ももこ (文化学園服飾博物館)

8. 房飾りに関する一考察 -フランス18~20世紀初頭のファッションプレートより-
横山 みいな (東京家政大学卒業生)

閉会の辞 会長：長崎 巖 (共立女子大学)

以上8件の発表は、多岐にわたるテーマと研究方法で大変魅力的なものであり、学生が真摯に研究に取り組んだ結果が良く表れていた。

最後は長崎巖会長より、コロナ禍が続く大変な環境であってもそれぞれに立派な研究成果が得られていたこと、大学4年間の集大成として大きな自信として欲しいと、発表者への激励で閉会の辞が述べられた。

発表会後に行ったアンケートの自由記述欄では、学生の熱意ある研究を称賛するコメントが多く見受けられた。また、発表論文会では二度目のオンライン開催であり、大きなトラブルもなく無事に会を閉じることができた。

最後に、今回、学生たちに発表を促してくださった先生方、卒業生との連絡を仲介してくださった先生方、ご協力頂いた先生方に心より御礼申し上げます。

(論文発表会担当 水谷・砂長谷・菅野)

***** 事務局より *****

会員異動 (敬称略、申込順)

【新入会員】

- 正会員 木林 祥子 (愛国学園短期大学)
- 若楨 七緒 (文化学園大学)
- 関 智子 (共立女子大学)

【退会員】

- 村岡 三喜子
- 本谷 裕子
- 伊藤 一郎
- 河島 一恵
- 青山 めぐみ

◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇

■「奇想のモード

—装うことへの狂気、またはシュルレアリスム—
 会 期：2022年1月15日 (土)～4月10日 (日)
 会 場：東京都庭園美術館 (本館+新館)

■「ヨーロッパ・モード」(特集：花～Flowers～)

会 期：2022年3月11日 (金)～5月18日 (水)
 会 場：文化学園服飾博物館

■「幻想の江戸

—異文化のまなざしに映った他者・表象・言説—
 会 期：2022年3月23日 (水)～5月14日 (土)
 会 場：東京・北区飛鳥山博物館

■「上野リチ ウィーンからきたデザイン・ファンタ

ジー展」
 会 期：2022年2月18日 (金)～5月15日 (日)
 会 場：三菱一号館美術館

■「丸山コレクション 西アジア遊牧民の染織 塩袋と

伝統のギャッベ展」
 会 期：たばこと塩の博物館 2階特別展示室
 会 場：2022年2月26日 (土)～5月15日 (日)

■「コシノジュンコ —原点から現点—

会 期：2022年4月15日 (金)～5月29日 (日)
 会 場：大分県立美術館 1階 展示室A

■「和と洋が会おう博物館 共立女子大学コレクション

ン8」
 会 期：2022年4月14日 (木)～6月4日 (土)
 会 場：共立女子大学博物館

■「開館25周年記念 華麗なる宝塚歌劇衣装の世界」

会 期：2022年4月16日 (土)～6月12日 (日)
 会 場：神戸ファッション美術館

■「寿 (ことほ) ぎのきもの ジャパニーズ・ウェ

ディング—日本の婚礼衣裳—」
 会 期：2022年4月23日 (土)～6月19日 (日)
 会 場：奈良県立美術館

■「型染～日本の美」

会 期：2022年6月15日 (水)～8月4日 (木)
 会 場：文化学園服飾博物館

■「ガブリエル・シャネル展 Manifeste de mode」(仮)

会 期：2022年6月18日 (土)～9月25日 (日)
 会 場：三菱一号館美術館、監修：ガリエラ宮
 パリ市立モード美術館、パリ・ミユゼ

■「柚木沙弥郎の100年 —創造の軌跡—

会 期：2022年9月17日 (土)～10月17日 (月)
 会 場：女子美アートミュージアム

■「未来は過去にある "THE FUTURE IS IN THE PAST" —NIGO's VINTAGE ARCHIVE—

会 期：2022年9月14日 (水)～11月13日 (日)
 会 場：文化学園服飾博物館

◇◇◇◇◇◇◇◇ 近著紹介 ◇◇◇◇◇◇◇◇

内村理奈著『名画のドレス：拡大でみる60の服飾小事典』平凡社、2021年7月。

徳井淑子日本語版監修・訳、小山直子訳、リディア・エドワーズ著『写真でたどる美しいドレス図鑑』河出書房新社、2021年11月。

石上阿希、加茂瑞穂編『西川祐信「正徳ひな形」：影印・注釈・研究』臨川書店、2022年2月。

東京家政大学博物館協力、青木正明著『伝統色づくり 解体新書「天然染料と衣服」：カラー写真で理解する染めの実現』日刊工業新聞社、2022年4月。

(会報編集担当 馬場まみ・森下あおい・小山直子)

会報 No.43：2022(令和4)年3月31日発行
 編集発行人：服飾文化学会
 事務局：102-8357 東京都千代田区三番町12
 大妻女子大学ライフデザイン学科工芸デザイン研究室
 TEL：03-5275-5738
 E-mail：fukubunjim@gmail.com
 URL：http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/